

職員をみて涙ぐみ 友の会に入っていてよかった

友の会会員まわり
坂総合病院



被害の状況を話してくれる斉藤はるよさん(自宅前で)

坂病院友の会では、3月22日から被災された会員さんの訪問活動を開始しました。友の会の畑山量子さんと佐々木真由美さんは被害の大きかった地域、高齢者の方を中心に安否の確認のほか支援物資などを配布してまわりました。

多賀城市八幡の佐藤司さん(74)の自宅は、床上1m以上の浸水。跡片付けの途中でしたが、自分のことより地震によるショックのため坂病院に入院した会員さんを見舞ってほしいとの伝言。原義夫さん(78)は、来て頂くだけでありがたい。避難所と違って食料が回ってこないの、区長さんと行政の会議をもっている。一番必要なものは?の問いには、水と家を片付けるための人手がほしいと話していました。斉藤はるよさん(78)は、職員の顔を見るなり涙ぐんで、家族全員が無事だったのが何より。こんな状況の時に訪問してもらって、「友の会に入っていてよかった」と話してくれました。

他に何ヶ所かまわりましたが、津波が3m近くにも達した家もありました。みなさん復興にむけて後片付けに励んでいました。ただ、商店に何時間も並んで、僅かな食料を確保しながらの作業ですので、水や食料、ホッカイロなどの支援物資は大変喜ばれました。友の会では、これから本格的な会員さんまわりをする計画ですが、医療支援と併せた会員さんまわりができればと思いました。(神馬)

小池晃都知事候補からメッセージ

坂病院が大きな役割を果たしていることを本当にうれしく誇りに思います。本当は飛んで行きたいような気持なのですが、都知事候補という立場で思うに任せません。本来、選挙をやっている時ではないのですが、強行される以上、「津波は天罰」などという石原に天誅を下します。私がここで頑張ることが懸命の救援を続けているみなさんへの連帯になると考え、頑張りたいと思います。 小池晃

保健所が避難所の医療支援の調整

坂総合病院今田隆一院長は、3月22日午前、塩釜保健所などをまわり、避難所の医療派遣などについて話し合ってきました。

これは避難所にさまざまな医療チームが入り「医療チームの重複派遣」をさけることなどを目的としたものです。今後については、塩釜保健所がセンター的役割を担うことになる予定です。今週は現在の支援を続け、来週からは塩釜保健所が自治体などとの連絡調整にあたりながら、避難所の医療支援を行うこととなります。

郵便物が初めて届けられる



3月22日午前10時頃、普通郵便が地震後、初めて厚生協会事務局に届けられました。これまでは速達だけの配達でしたが、これからは普通郵便も届くことになります。(写真はどっさり届けられた郵便物)